稲場遺跡の発掘調査成果について

資料№1

　寺泊地域で実施されている県営圃場整備事業潟４期地区に伴い、稲場遺跡の発掘調査を行いました。



１．遺跡の概要

遺　跡　名：稲場（いなば）遺跡

所　在　地：長岡市寺泊大地地内

遺跡の時代：弥生・奈良・平安

遺跡の種別：集落跡

２．調査の概要

調査期間：平成29年５月15日から６月27日まで

調査面積：743㎡

出 土 品：土師器・須恵器（食膳具ほか）、木製品（板材ほか）、石帯、墨書土器、転用硯、弥生土器、石鏃、柱

主な遺構：柱穴、土坑、溝、土器集中遺構

調査成果：奈良・平安時代の土器が一定量出土し、大地付近で集落の形成が古代にさかのぼることが確実となりました。また、量としては少ないものの弥生時代中期の土器が出土したことから、稲作が始まった時期の生活の場として、この土地が選択されたことがうかがえます。遺跡の東側には明治期まで円上寺潟が存在し、寺泊屈指の低湿地帯として知られる場所です。稲場遺跡は円上寺潟の範囲より標高が高くなっており、日常生活と稲作の両方に適した立地だったと考えられます。

稲場遺跡

地図